

小學級  
修正尋常日本讀本  
卷四

新編  
P  
171

檢定申請本

K120.8  
51.2b  
4

K120.8

51.2b

4

渡邊政吉著

單級小學修正尋常日本讀本

東京

金港堂書籍株式會社

○月ノ大小

一年ハ三百六十五日ニシテ、之ヲ分チテ十二箇月トス。月ニハ大小アリ。日カズ三十一日ノ月ヲ大トシ、日カズ三十日ノ月ヲ小トス。一、三、五、七、八、十、十二ノ月ハ大ニシテ、二、四、六、九、十一ノ月ハ小ナリ。サレド二月ノミハ、大小ノ中ニ入レズ、ツネノ年ハ二十八日トシ、四年目ニハ一日ヲマシテ二十九日トス。一年ノアヒダニ、春、夏、秋、冬ノ四ツノジセツ

渡邊政吉著

單級 小學 修正尋常日本讀本

東京 金港堂書籍株式會社



○月ノ大  
 一年ハ三百六十五日ニシテ、之ヲ分チテ十  
 二箇月トス。月ニハ大小アリ。日カズ三十一  
 日ノ月ヲ大トス。三月ノ月ヲ小トス。一、三、五、七、八、十、十二ノ月ハ大ニシテ、二、四、  
 六、九、十一ノ月ハ小ナリ。サレド二月ノミハ、  
 大小ノ中ニ入レズ、ツネノ年ハ二十八日ト  
 シ、四年目ニハ一日ヲマシテ二十九日トス。  
 一年ノアヒダニ、春、夏、秋、冬ノ四ツノジセツ

アリ。三、四、五ノ月ヲ春ト云ヒ、六、七、八ノ月ヲ夏ト云ヒ、九、十、十一ノ月ヲ秋ト云ヒ、十二、一、二ノ月ヲ冬ト云フ。

○ノーギョー

田畑ヲタガヘシテ穀物、野菜ヲ作り、又綿ヲ作り、カヒコヲカヒナドスル人ヲノーフト云ヒ、其ノワザヲノーギョート云フ。

我が國ハ氣候モ土地モ、ニツナガラヨロシケレバ、ノーギョーヒロク行ハル。

ノーフハ、クハニテ土ヲオコシ、カマニテ草ヲカル。

ノーフハ、ジセツヲカンガヘテ、タネヲマキ、コエヲホドコスコトヲワスルベカラズ。

タネマキノジセツヲアヤマタバ、作物ノソダチヨロシカラズ、コエヲホドコスニ其ノジセツヲアヤマタバ、作物ノタメニナラヌナリ。ノーフハ此等ノジセツヲ知ルノ外、ナホ取入レノジセツヲワキマヘ、コエノ用ヒ



方ヲ知りオクベシ。

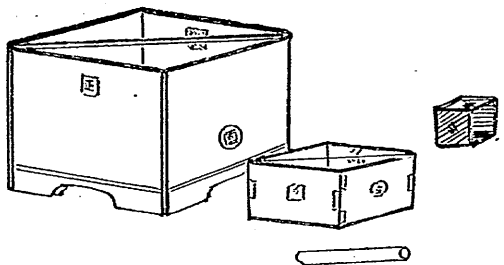
○こやし

見よ一人の男は、たわらよりほしたる魚をとり出し、あまたの女は、いねの根にほしたる魚をさしはさめり。

あの魚は、何と云ふ魚なりや。

あの魚は、ほしかとて、いわしをほしたるものなり。

ほしかは穀物、野菜のこやしとなるものなれば、農夫は作物の未だとだたざるまへに、其の根にさしいれて、成長を助くるなり。すべて作物は、こやしを得て、成長するものなり。作物にこやしの入用なるは、ちよーど人に食物の入用なると同じきなり。人は口にて食物を食ひ、作物は根にてこや



しをとる。

○ 枡

枡は木にてつくりたるものにて、米、むぎなどをはかるうつはなり。

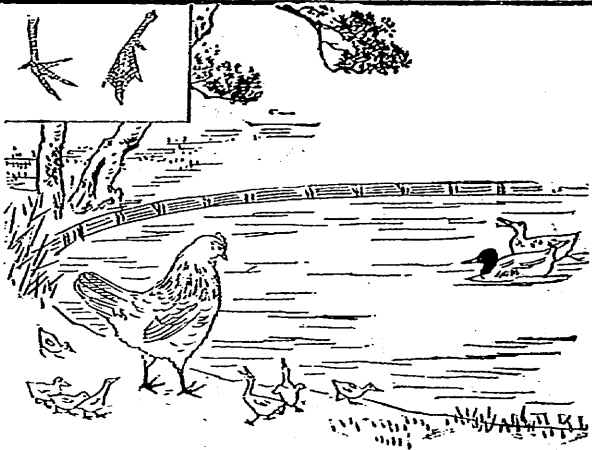
枡目は、十合を一升と云ひ、十升を一斗と云ひ、十斗を一石と云ふ。枡には一斗枡、一升枡、一合枡などあり。

枡は米、むぎの類をはかる外に、さけ、しょーゆ、あぶらの類をはかるにも用ふ。

米、むぎは、俵にいれてたくはへおき、又はえんぽーへおくりいだす。米俵には、三斗五升入り、四斗入り、五斗入りなどあり。

○ ニハトリ

ココニアヒルトニハトリトアリ。アヒルハ、イ、ケノナカニアリテ、ミツヲオヨギ、ニハトリハ、イケノフチニアリテ、エヲヒロヘリ。



ニハトリハ、ナニユエニミヅヲオヨガザル  
 カ。アヒルハ、アシニミヅ  
 カキアレドモ、ニハトリ  
 ニハ、ミヅカキナケレバ、  
 ミヅヲオヨグコトアタ  
 ハズ。  
 イチハノメンドリ、アマ  
 タノヒヨコヲツレテ、イ  
 ケノフチニキタレリ。アノヒヨコハ、アヒル

ノヒヨコナレバ、カナラズミヅノナカニイ  
 ルナラン。

○友

友ニハ、良キモアリ、惡シキモアリ。良キ友ト  
 交レバ、日日ニ善キコトヲオボエ、惡シキ友  
 ト交レバ、日日ニ惡シキコトヲオボユベシ。  
 良キ友ニハ、ムツマシク交リ、惡シキ友ニハ、  
 シタシムベカラズ。  
 良キ友ト交リヨムスバ、ントセバ、オノレノ

ギョーギヲ正シクシ、友ニ信實ヲツクスベシ。

信實トハ、イツハリヲカタラズ、ヤクソクヲタガヘザルヲ云フ。

ギョーギ正シカラズシテ、信實ナキモノハ、良キ人ハ、友トセザルナリ。

○金錢をたいせつにせよ

よく家業をはげみて、金錢、どーぐをたいせつにするものは、富みさかゆれども、家業を

おこたりて、むえきに金錢を費し、すべての品品をそまつにするものは、しだいに貧しくなりて、家をもたもちがたきに至るものなり。

汝等若しも金錢を得ることあらば、むえきに費さずして、たくはへおくべし。

又汝等は、つねにきる衣服より、かくこーにて用ふるしよもつ其の外の品品に至るまで、すべてていねいにとりあつかひ、かりを





めにもとまつにすること  
あるべからず。

○わかき男、子供を

助く

此のづを見よ、一人の幼き  
子供は、ぬかるみの中にま  
ろびて、起きもあがらずな  
き居り、とばに立てる一人  
のわかき男は、其の手をと

りて、起こし立てんとつとめ居るなり。

わかき男は、まろびたる子供の友だちにあ  
らず、又知り合ひの者にあらざれども、子供  
のなきさけぶをききて、助け起こさんとす  
る所なり。

すべて人は、外の人なんぎにてあひ、ふし  
あはせにかかるを見れば、身のほどをはかり  
て救ひ助くること、この男のごとくすべし。

○子供ノ骨

人ノカラダノ骨ハ、子供ノ時ハ至ツテヤハラカニシテタワミヤスク、年フルニツレテ、次第ニコハクナルモノナリ。

子供ノ時ニ胸ヲカガメテ、シヨモツヲヨミナドスルトキハ、ツヒニ其ノママノミグルシキ形トナリ、一生之ヲナホスコトノカナハ又モノナリ。

常ニムネヲカガムルクセアル人ハ、其ノ形ノミグルシキノミナラズ、之ガタメニ、胸ハラノ内ニアルタイセツノドーグヲイタムルコトアレバ、子供ノ時ハ、ツトメテ形ヲ正シクシ、首ヲマゲ胸ヲカガムルコトアルベカラズ。

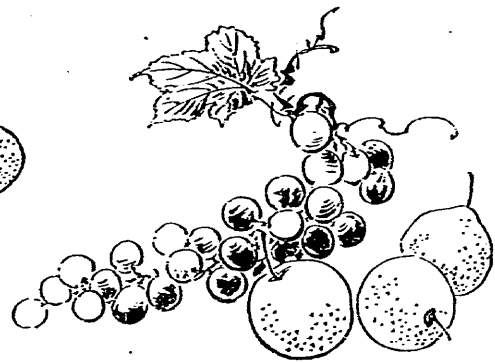
## ○ハナ

ハナニハイロイロノナマヘアリ、ウツクシクシテウヘニアルヲ、ハナビラトイフ。

ハナビラノナカニハ、ホソキハシライクホシモアリテ、ソノイタダキニハ、コマカナル



コナヲツケタリ。コレヲヲ  
 シベトイフ。  
 ヲシベノウチガハニハ、ベ  
 ツニオホキナルハシラア  
 リ、コレヲメシベトイフ。  
 メシベ、ヲシベハ、ハナノウ  
 チ、イチバンタイセツノトコロナリ、ナカニ  
 モメシベハ、モットモタイセツナリ、キノミ、  
 クサノミハ、タイテイハ、ソノシタニナルナ



リ。  
 ○くだもの  
 なしは四月ごろ白き花  
 開き、秋に至りて實を結  
 ぶ。味甘くして、人のこの  
 みて食ふものなり。  
 おどーは五月ごろ花開  
 き、秋に至りて實を結ぶ。  
 實は一ふさに二三十つ

ぶあり。其の熟せざるときは、色青く味すくしてしぶけれども、熟するときは、むらさきいろとなりて、味すこぶる甘し。

みかんは七月ごろ花開き、冬に至りて其の實熟して黄色となる。其の味甘くしてすし。

○きのこ

きのこの類は甚多けれども、人のこのみて食ふは、しひたけと松だけとなり。しひたけは、春と秋とに生ずるものにて、あぶりて食

し、又は煮て食す。されども多くは火にてかはかし、貯へおきて食用とす。

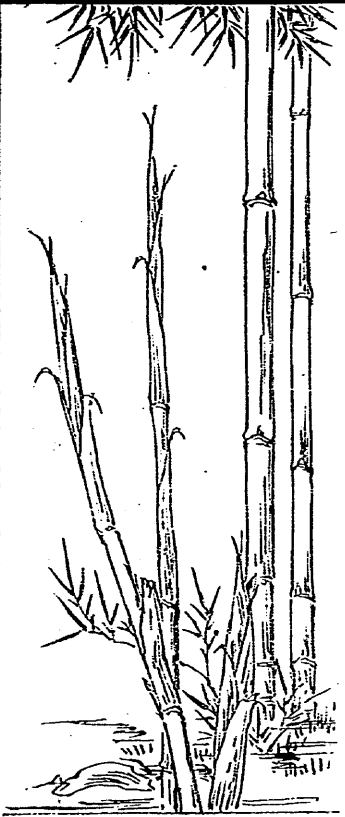
松だけは秋の末、松山に生ずるものなり。これはあぶりても食し、むし又は煮ても食す。味すこぶるうまし。

松だけは、しひたけの如く、かわかして貯へがたきゆゑに、しほにつけて貯ふることあり。

○タケノコ

汝等タケノコノ成長スルヲ見タルコトアリヤ。

タケノコノ成長スルハ實ニハヤキモノニテ、其ノノビカタハ日日ニ知ラルルホドリ。タケノコハ皮ヲイク枚トナクカブレド



モ成長スルニシタガヒ、下ノ皮ヨリ次

第二オチ去リテ、ツビニ竹トナル。竹ノ皮ハ、タケノコノヤハラカキウチハ、其ノソトガハヲマモルモノニテ、アタカモイクサニシノヨロヒノゴトキモノナリ。

タケノコニハ種々アレドモ、其ノ最太クシテ味ノウマキハ、モ―ソ―ノタケノコナリ。

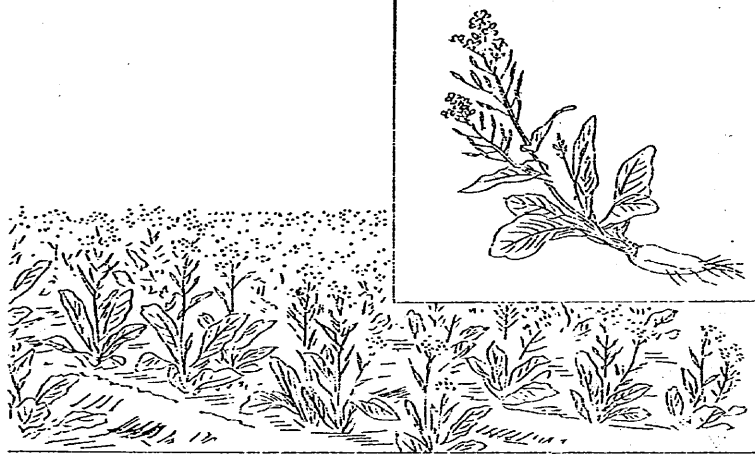
○茶園

茶ヲ作ル畑ヲ茶園ト云フ。茶園ニハ、アマタノ、茶ノ木、レツヲナシテ生ヒシゲレリ。



茶ノ木ハ、四五月ノコ口、ヤハラカキ葉ヲ生ズ。人ノ飲ム茶ハ、コノ葉ヲツミトリテ、セイシタルモノナリ。

茶ノ木ハ、ツバキニニタル木ニテ、枝ハミキノ下ヨリムラガリ生ズ。サレドモ茶ノ木ハ、イク年ヲフルモ、ツバキノ如キ大木ニハナラヌモノナリ。



ナリ。

○なのはな

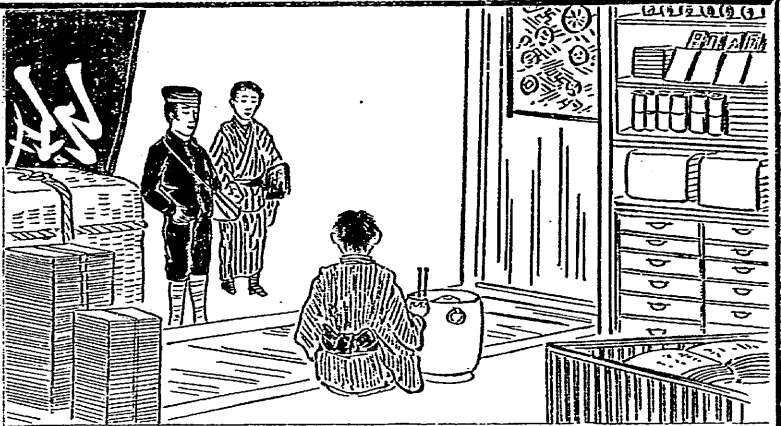
このはたには、きいろのはないちめんにさけり、このはなは、なのはななり。

このなのくきは、はなはだふとくは、もよほどおほきなり。

これはなんといふななりや。これはあぶらななり。あぶらなとは、そのたねよりあぶらをとるものをいふ。あぶらななたねよりとりたるあぶらをば、たねあぶらといふ。たねあぶらは、あかりをともし、又やさいにくるいをあげて、しょくもつとするにもちふ。

○紙

これは紙屋の店なり、たなの上には、いろいろの紙あり。手紙を書くに用ふる紙をまき



紙と云ひ、其のつがざるものを半切れと云ふ。人の多く用ふる紙は、半紙なり。半紙は帳面に作り、又さまざまの書き物を爲すに用ふ。半紙の中に駿河<sup>スルガ</sup>半紙と云ふ紙あり。此の紙は富士山の南なる駿河の國より出づ。しょじをはるに用ふ

る紙を美濃紙と云ふ。

この紙は美濃と云ふ國より出づ。まことに  
じよーぶなる紙なり。

○筆硯スミ

筆ハ字又ハエヲ書クニ用フルモノニテ、其  
ノスミヲツクル所ヲホト云ヒ、其ノモツ所  
ヲギクト云フ。  
筆ノホハ、ケモノノ毛ニテ作り、其ノギクハ、  
竹ニテ作ル。

硯ハ石ヲホリテ作りタルモノナリ。スミノ  
汁ヲウクル所ヲ海ト云ヒ、スミヲスル所ヲ  
岡ト云フ。

スミハ、ユエンヲカタメテ作りタルモノナ  
リ。

エンピツノシンハ、セキボクトイヘル黒キ  
石ノ如キモノヲクダキテ、コマカナルコト  
ナシ、之ヲカタメテ作りタルモノナリ。

○カンニン



友ト交リ、知ラヌ人トカタラフ時ハ、心ニ快カラヌコトハ、常ニ起リガチノモノナリ。モシ之ニツレテ一一怒リナバ、一生ノ中ニ快キ日トテハ、キハメテマレナルベシ。サレバ人ハ心ニ快カラザルコトアリトモ、心ヲシヅメ氣ヲ平カニシテ、ミダリニ怒リヲ起スベカラズ。

コトワザニ、ナラヌカンニンスルガカンニシトイヘルコトアリ。カンニシガタキ事ガラフモ、タヘシノビテ怒ラザル時ハ、心平カニナリテ、オノヅカラ快キ事多キモノト知ルベシ。

○みのおこなひをいさぎよく

せよ

ひとは、そのみのおこなひをいさぎよくすべし。かりとめにもいやしきことをなすべからず。

みだりにひとのものをほしがり、ひろひた

るものを取りおきて、じぶんのものとするなどは、まことによろしからず。ひとのものをほしがるものは、ともだちにあざけられ、ひろひたるものを取りおきて、じぶんのものとするものは、とどくとおなじくつみせらる。さればひとは、つとめてみのおこなひをいさぎよくし、ひとよりうしろゆびをさされぬよりにところがくべし。



○蒸氣

汝は鐵びんの湯のにえ  
たつを見しことあらん。  
湯のにえたつときは、鐵  
びんの口より湯たちの  
ぼりて、其のさまあたか  
もけぶりのたちのぼる  
がごとし。  
湯のにえたつこと、甚し

くなれば、湯氣は鐵びんのふたをおしあげ、其のすきまよりもたちのぼるなり。

湯氣は、水が熱の爲にむされて、氣となりたるものなれば、之を蒸氣と名づく。蒸氣はものをおす力ある故に、其の力をかりて車をめぐらし、又は舟をはしらす。

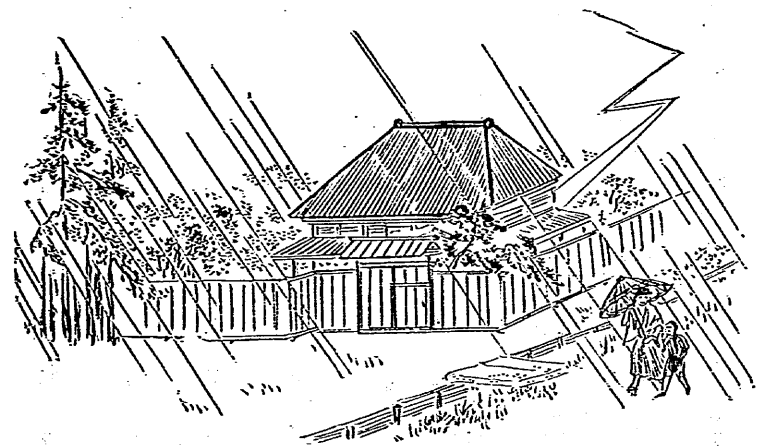
### ○手紙

ヨームキヲ紙ニ書キシルシテ、人ニ送ルモノヲ手紙トイフ。

手紙ハ使ヒニモタセテ、送リトドクルコトアレドモ、ダイテイハ郵便ニテ差出スナリ。郵便ハ時ヲサダメテトリアツメヲナシ、又送リトドケヲナスモノナレバ、手紙ヲ郵便バコノ中ニ入レオケバ、定メノ時刻ニハ、受取り人ノ方ヘトドクナリ。

### ○雷

夏ノアツキ日ニハ、晴天ニハカニカキクモリテ、大雨ヲチマチフリキタルコトアリ。此



ノ雨ヲ夕立チト云フ。  
 夕立チノフル時ハ、タイ  
 テイ雷ノナルモノナリ。  
 イナビカリ、戸ノスキマ  
 ヨリサシコミ、雷、屋根ノ  
 上ヲナリワタル時ハ、マ  
 コトニスサマジキモノ  
 ナリ。  
 雷ノナル時ハ、オホカタ

其ノ光リ先ヅ見えテ、音ハ次ギニ聞コユル  
 ナリ。光リト音トハ、モト同ジ時ニ起レドモ、  
 光リノ目ニ來ルハハヤクシテ、音ノ耳ニ達  
 スルハオソキユエニ、光リト音トベツベツ  
 ニ起ルヨ一ニオモハルルナリ。

○ペンきよー

ひとはうまれながらにして、ちゑあるもの  
 にあらず、をさなきときよりとくしよ、さん  
 じゆつをはじめとして、そのほかいろいろ

のことがらをならはざれば、かしてきひと  
とはならぬなり。なんぢらかしてきひと  
となりたくば、かくこゝにありてはよくき  
よしのをしへをまもり、いへにありては  
ちち、ははのおほせにしたがひて、かくくもを  
べんきよすべし。

○人の貧富

人の貧しきと富めるとは、其の職業による  
ものにあらず。よくかせぐと、かせがざると

によりて、貧しき人ともなり、富める人とも  
なるなり。

誰にてもよく家業をはげみ、其のみちに熟  
するときは、自ら利益を得て、富めるに至る  
べけれども、みだりに職業のよしあしをか  
んがへ、しばしば家業をかふるときは、多く  
はもとてを失ひ、家をかたむくるなり。

汝等、成長ののちは、身にかなひたるほどの  
職業をえらび、心をいれて、其の業をはげむ

べし。

○女子ノツトメ

女子ハヲサナキ時ヨリ、朝早ク起キ出デテ、カホヲ洗ヒ口ヲソソギ、自ラカミヲクシケヅリ、ミジマヒヲナスベシ。父母目サメタマハバ、先ヅ其ノ日ノキゲンヲウカガヒ、後ニガクコーニ行クベキシタクヲナスベシ。

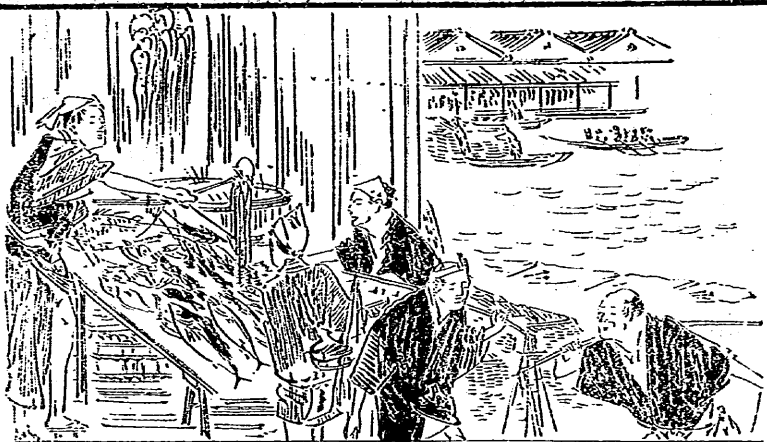
女子ヤヤ、成長シテ家事ノテツダヒヲ爲シ

得ルホドニ至ラバ、リョーリ、サイホーノ事ヲ見習ヒ、日日ノコヅカヒチョーナドハ、ツトメテコマカニシルシオキテ、ハハオヤノ手助ケヲナスベシ。

○魚市場

コレハ魚市場ナリ。問屋ノマヘニハアマタノ魚ヲナラベタリ。

リョーシハ其ノトリタル魚ヲ此ノ魚市場ニモチ來リテ、問屋ニ賣リサバキヲタノミ、



魚屋ハ日日市場ニ行キテ、  
 買出シヲ爲シ諸方ニ賣ル  
 ナリ。  
 市場ハ、魚市場ノ外ニ、青物  
 市場、古著市場ナドアリ。市  
 場ハスベテニギヤカナル  
 モノナリ。中ニモ魚市場、青  
 物市場ハ、最ニギハシ。  
 魚、青物ノ市場ニテハ、問屋

ノ主人品物ノアタヒヲヨビアゲ、魚屋、八百  
 屋其ノ前ニヨリアツマリテ、品物ノアタヒ  
 ヲセリアフナド、實ニカマビスシキモノナ  
 リ。

○外國人

汝等は、廣きつつとでの衣服を著、かしらよ  
 りうちひものごととき長きかみの毛をたれ  
 たる人を見しことあらん。此の人は我が國  
 の西の方にある支那<sup>シナ</sup>と云ふ國の人なり。



又身の長高く、目くぼみ、かみの毛ちぢれて、多くひげをはやせる人を見しことあらん。此の人は西洋人として、支那よりもなほはるかに西の方にある國の人なり。支那人、西洋人は、日本

の外の人なれば、之を外國人と云ふ。外國人は、多くは高賣をなす爲めに、我が國に來りて住まひをなすなり。

○町村役場

汝等は町又は村に住むならん。町又は村には役場ありて、其の町村の學校、橋、道などのせわをなす。町村の役場には、四五人又は十五六人の役人あり。其の役人のおもなるものを町長、もしくは村長と云ふ。



町村長は下役にさしづして、いろいろの用事をなさしめ、下役は町村長のさしづを受けて、役場の用事を取りあつかふ。

○チョーソンゼイ

チョーソンチョーハ、ソノチョーソンノガクコー、ハシ、ミチ、ナドノセワヲナセドモ、ミヅカラカネヲイダシテ、ガクコーヲツクロヒ、ハシ、ミチ、ナドノテイレヲナスモノニアラズ。

チョーソンチョーハ、ソノチョーソンニスムヒトビトヨリ、ガクコー、ソノホカノセワヲナスニ、ニューヨールカネヲトリタテオキテ、ツカヒハラヒヲナスナリ。  
チョーソンニスムヒトビトヨリ、ソノチョーソンノガクコー、ソノホカノニューヨールノタメニ、ヤクバニサシイダスカネヲ、チョーソンゼイトイフ。

○日本武尊



此ノエハ日本武尊ノエナリ。

尊御年十六歳ノ時西國ニクマソタケルト云フモノアリテ軍ヲ起シケレバ之ヲウチホロボサントテハルカニクマソノ國ニ下リ女ノ姿シテタダ一人クマソタケルガ家ニ入り込ミタマヘリ。

サテサカモリノトキ、キユージニウチマジリテ、スキヲウカガヒ、クワイケンヲヒキヌキ、クマソタケルノムネヲサシタマヒタリ。クマソタケルハ尊ノ武勇タグヒナキヲホメタテマツリシガ、ツビニ尊ニコロサレタリ。

○神功皇后

これは神功皇后と武内宿禰の姦なり。さきに日本武尊くまを平げてより後、百



年ばかりをへて、くまと又  
 むほんをくはだてたり。  
 皇后は、くまのかくしは  
 しばむほんをくはだつる  
 は、しらぎといへる外國が、  
 其のかせいをなすによる  
 ならんとさつしたまひ、御  
 みづから大將となりて、し  
 らぎをせいばつしたまひ

たり。

しらぎ王は、皇后の御いこにおとれて、た  
 ちまちこーさんし、となりぐにのこま、くだ  
 らと云ふ國國も、亦つづいてこーさんした  
 り。世に此の軍を三かんせいばつと云ふ。三  
 かんとは、しらぎ、こま、くだらの三箇國を云  
 ふ。すなはち今のかん國の内なりき。

○醍醐天皇

醍醐<sup>ダイゴ</sup>天皇は、ひさしく御位にましませしが、

其の間常に政をつとめ、民をあはれみたまへり。

ある冬の夜、さむきことにはげしきことありて、人人たへがたく思ひしに、天皇にはかに御衣をぬがせたまひければ、おとばの人あやしみて、其のゆゑをとひたてまつりたり。

天皇のおふせに、「今夜さむきことにはげし、朕がごとく九重の内に居て衣を重ねるも、

なほたへがたし、貧しき民の中には、衣うすくしてこごゆるものもあらん、之を思へば朕ひとり重ね著るにしのびず」とのたまへり。

○義經

義經ヨシノブハハジメノ名ヲ牛若トイフ。二歳ノ時、平ノ清盛キヨモトノ爲メニコロサルベカリシガ、故アリテ命助カリ、クラマ山ノ寺ニヤラレタリ。



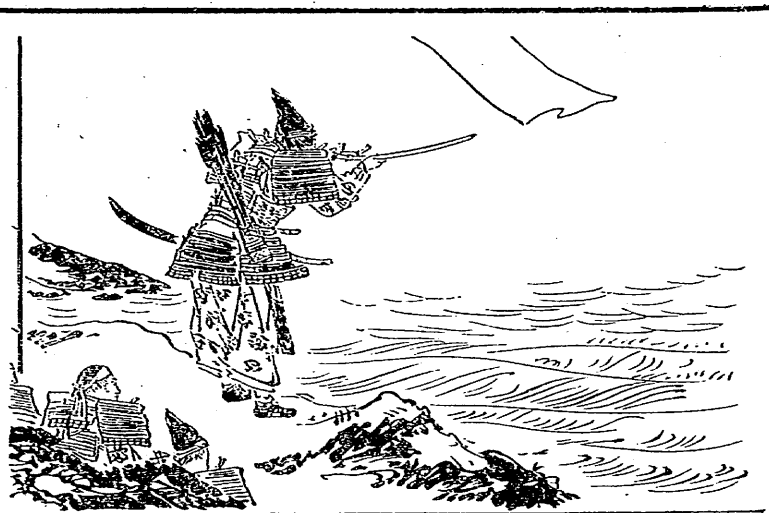
牛若成長スルニ  
及ビテ家ノホロ  
ビシコトヲ知リ  
フタタビ家ヲオ  
コシ父義朝ノア  
ダヲムクイント

思ヒ、九郎義經ト名ノリ、ムツノ國ニ下リタ  
リ。  
後、兄頼朝兵ヲ起コシテ平氏ヲウツトキキ、

ムツヨリ上リ、一方ノ大將トナリテ、キョー  
トニ上リ、先ツ木曾義仲ヲホロボシ、ツツイ  
テ平氏ヲ一谷屋島ニセメ、ツヒニダンノウ  
ラニテ之ヲミナゴロシニシ、初メノ志シヲ  
トゲタリ。

○新田義貞

ムカシ新田義貞、後醍醐天皇ノ爲メニ北條  
高時ヲウタントテ、軍ヲ起シテ鎌倉ニ向ヒ  
タリ。



鎌倉ハ三方山ニツツ  
マレ、一方海ニ向ヘリ。  
義貞其ノ海ノ方ヨリ  
攻メ入ラントテ、イナ  
ムラガサキト云フ所  
ニ至リシニ、フリフシ  
ウシホミチテ、ヨーイ  
ニオシヨセガタカリ  
キ。

義貞シバシ、シアンノ後、コシニオビタルツ  
ルギヲトキ、海ニナゲ入レテ神ニイノリシ  
ニ、ホドナクウシホ退キハジメタリ。  
義貞コレヲミテ大イニヨロコビ、海手ヨリ  
軍ヲ進メ、イキホヒタケク敵ニツキ入りテ、  
ナシナク高時ヲ亡シタリ。

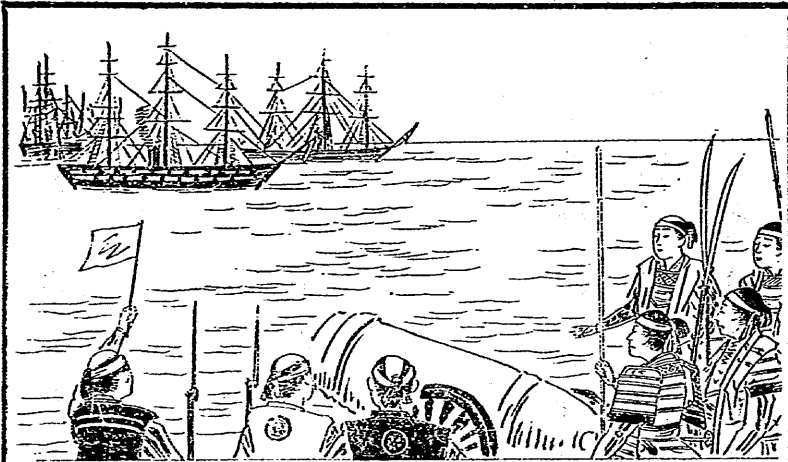
○豊臣秀吉

豊臣秀吉は、年二十二歳の時、はじめて織田  
信長のしもべとなり、それより次第に出世

して、一軍の大將となり、つひに信長のあとをつぎて天下を定め、豊臣の姓をたまはり、くわんぱくの職にのぼれり。  
 秀吉すでに天下のはたがしらとなりたれども、なほ之にあきたらず、支那を攻め取らんと、の大きなる望みを起こし、加藤清正カトキキヨマサ小西行長ニシユキナガなどをやり、先づちよーせんを攻めしめたり。  
 かくて我が軍すでにちよーせんチヨウセンの王城を



のりとり、進んで支那に入らんとし、つづきて支那、ちよーせんチヨウセンの軍と諸所にたたかひしが、秀吉やみてごーじければ、軍はすぐに召しかへされたり。世に之をちよーせんせいばつと云ふ。  
 ○西洋人來る



此のづを見よ、海には四  
 と一の汽船あり。あの汽  
 船は皆大きくしてじよー  
 ぶとーに見ゆ。  
 これは如何なる船なる  
 か。  
 これは軍艦なり。軍艦は  
 軍に用ふる船にて、大砲  
 をとなへたるものなり。

海の岸には、多くの軍人れつを正してなら  
 びたてり。軍人はかっちッーをつけ、やり、な  
 ぎなたを持てるもあり、つつとでに、のばか  
 まをはき、鐵砲をたづさへたるもあり。  
 軍艦にのれる人は西洋人にして、海の岸に  
 ならべる人は日本人なり。  
 このゑは、今より凡そ五十年前に、西洋人の  
 はじめて我が國へ來りたるときのありさ  
 まをうつせるものなり。



171

小學修正尋常日本讀本卷四終

全八册(明治廿五年十二月一日)日印  
 自卷二(明治廿六年九月三日)訂正再版印刷  
 至卷五地(明治廿六年九月七日)日發  
 全八册(明治廿四年十一月二十七日)日發  
 同(明治廿四年十一月二十七日)日發

定價  
 第一 金 六 錢 第五上 金 拾 錢 八 厘  
 第二 金 七 錢 貳 厘 第五下 金 拾 貳 錢  
 第三 金 八 錢 四 厘 第五天 金 拾 貳 錢  
 第四 金 九 錢 六 厘 第五地 金 拾 貳 錢

(修正級目讀奥)

版權所有

著 者 渡 邊 政 吉

發 行 者 兼 印 刷 者 金 港 堂 書 籍 株 式 會 社

代 表 者 原 亮 一 郎

東京市下谷區龍泉寺町四百十四番地

買 捌 所 各 府 縣 特 約 販 賣 所

金港堂書籍株式會社

